

橋本組DX推進計画

目次

- 01 | 代表メッセージ
- 02 | DX推進計画の方向性
- 03 | 建設現場のDX
- 04 | DX推進のための環境整備
- 05 | 指標

代表メッセージ

当社は、福島県双葉郡楢葉町に本社を構えて事業を行っております。
震災以前は多くの国有林関係の工事案件を請け負っていましたが、
震災後は、少しでも早く私たちの地元を取り戻そうと、
復旧関連事業にも積極的に参画し、防災林の設置工事、廃棄物関連工事なども請
けもち、地域のインフラ整備にも関わって参りました。

しかし今日、建設業界において慢性的な人手不足や週休二日制の推進、
時間外労働の上限規制もあり、今後も事業活動を継続するためには
これまでより少ない人員で効率的に現場作業を進めていく必要があります。
そこで当社は、ICT建設機械の使用や3次元設計データの活用により、従来の建
設現場と比較して少人数で生産性が上がる工事を行うことを目標とします。また
スマートフォンやタブレット等のデジタルツールを利用し、業務の効率化を進め
ます。これらにより会社規模でDXを推進し、変化していく建設業界の状況に対応
していこうと考えています。

代表取締役 橋本 明

DX推進計画の方向性

ICT活用工事を推進し、ICT建設機械の使用を始めとする、3次元設計データの活用により建設現場作業の省力化と効率化を図ります。

省力化 効率化

ICT活用工事の推進



3次元設計データの活用

ICT建設機械の使用

デジタルツールを利用し、工事書類の分業化・効率化を図り、発注者・受注者間でASP・遠隔臨場等のリモートワークを推進します。

デジタル化

工事書類作成の分業化



効率UP

ASP・遠隔臨場

リモートワーク推進



建設現場のDX

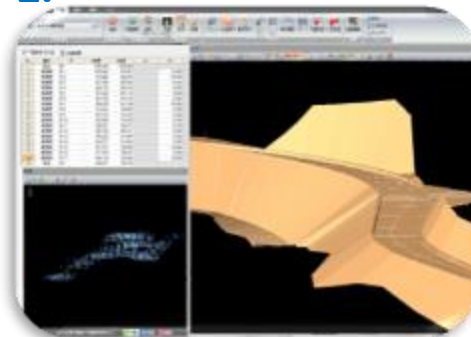
1.



ICT建設機械の活用

- ICT工事に対応した建設機械を導入することにより、従来の工事が必要であった丁張設置の作業を省き、効率よく建設工事を進捗させます。また従来の建設機械を使用した場合よりも熟練の技術や補助作業員の必要なく安全に作業できるようにします。

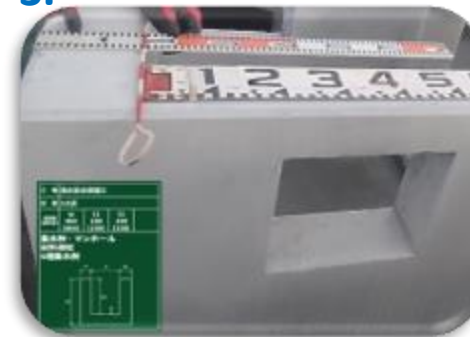
2.



3次元設計データの活用

- 調査測量・出来形測量に際し、ICT測量機器を活用し、必要人員の削減・作業時間の短縮を図ります。この測量結果を3次元設計データに反映させ、視覚的に分かりやすい工事書類を容易に作成し、工事発注者への報告を円滑にします。
- 3次元設計データにより建設現場のAR化を図り、工事を可視化させ、発注者や関係各者との打ち合わせを緊密にします。また工事進捗を円滑にし、施工不良による手戻りを無くします。

3.



デジタルツールの導入と活用

- 工事写真に電子小黒板を導入し、写真整理に要する時間を削減します。電子写真と出来形・品質管理をソフトで連携し、リモート作業を可能にし、現場にいない社員間で分業することにより短時間での工事書類の作成を可能にします。

4.



情報共有

- 工事発注者・受注者間でASP(情報共有システム)を利用し、紙による文書のやりとりを廃止し、インターネットを介してのやりとりで円滑化・ペーパーレス化を図ります。またオンライン会議のソフトを活用し、遠隔臨場を行い、工事発注者の移動の労力と時間を削減し、建設現場の工事の遅れを無くします。

DX推進のための環境整備

DX推進組織を編成し、組織を構成する人材を育成してDXを実現することを目指します。

DX推進組織の編成

各部署からDX推進担当者を選別し、DX推進委員会を編成。会社全体のDXを推進します。

CIMを活用した土木部内の連携の強化、クラウド上で動作するソフトの活用による部門間の連携やリモートワークの推進を図ります。



環境整備

- ・ **ASP(情報共有システム)の活用**
ASPを活用し、WEBを通じて工事発注者・受注者、工事関係者の円滑な情報のやりとりを行います。
- ・ **自社サーバーの利用**
自社のサーバーを利用しリモートワークの活用など業務遂行を促進します。



DX人材の育成

デジタル技術を効率的に習得し、実務で活かすことができるよう人材を育成します。

- ・ ドローン運転の資格取得
- ・ ICT活用工事関連ソフトの講習会参加等



指標

以下の指標によりDX計画の推進状況を管理します。

2025年度目標

